

令和5年度下半期 スケジュール

カワニナ生息数調査 場所：北小木川・神明洞川

期日 令和5年10月22日（日）9：00～ 雨天の場合は10月29日（日）に延期

市天然記念物「北小木のホタル」調査の一環として、ホタルの幼虫の餌であるカワニナ（巻貝の一種）の生息数調査を北小木川と神明洞川で毎年秋に行っています。今年度もボランティアにご協力いただける方を募集しています。※詳細はホームページをご確認ください。

北小木川の草刈 場所：北小木川

期日 令和5年11月19日（日）9：00～ 雨天の場合は11月26日（日）に延期

市天然記念物「北小木のホタル」の住みやすい環境作りのため、北小木川の草刈を実施します。ご協力いただけるボランティアの方を募集します。※詳細はホームページをご確認ください。

おなだかました

多治見市文化財保護センター 企画展「小名田窯下」

期間 令和6年1月29日（月）～6月21日（金）開館時間：9:00～17:00（最終入館 16:30） 土曜日・日曜日・祝日は休館

多治見市史跡に指定されている小名田窯下窯から16世紀に作られた白天目茶碗の陶片が出土しています。

市無形文化財「白天目」技術保持者の青山双溪氏が再現した茶碗とともに、16世紀の瀬戸・美濃の白天目を紹介します。

多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033

E-mail hogo-cen@city.tajimi.lg.jp/bunkazai/

ホームページ <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

アクセス

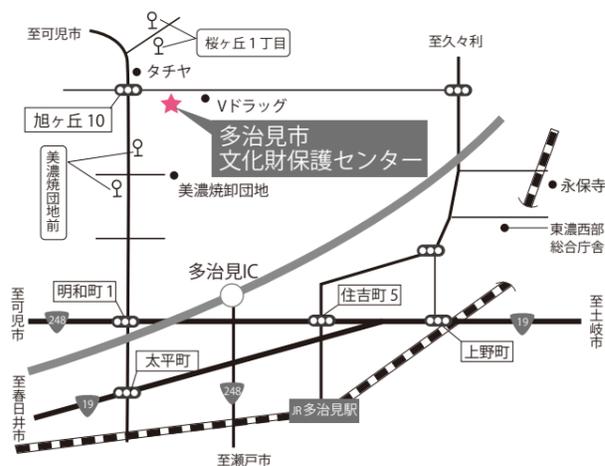
●自動車

多治見 IC より車で約 10 分

●電車・バス

JR 多治見駅北口より東鉄バス・桜ヶ丘ハイツ線または緑ヶ丘線に乗車

「桜ヶ丘1丁目」または「美濃焼団地前」下車・徒歩5分



自然と人の文化

No.62 2023年10月発行

編集・発行 多治見市文化財保護センター

利用案内 開館時間：9:00～17:00（最終入館 16:30）

休館日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

入館料 無料

発行部数：1,300部（税込43,940円）

この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。

Instagram



X



ホームページ



アカウントは @tajimi_bunkazai



多治見市文化財保護センターだより No.62 2023.10

多治見市文化財保護センター収蔵品

アイヌの民族衣装



民族の多様性を学ぶために

文化財保護センターでは、市民の皆様から寄贈された民具や資料を数多く収蔵しています。寄贈いただいた資料は、市内の小学校の校舎内にある展示スペースで活用するほか、授業用教材として学校への貸出も行っています。

今年度から新たに、文化財保護センターに収蔵されているアイヌの民族衣装の貸出をスタートしました。2020年に国立アイヌ民族博物館がオープンし、小学校・中学校の教科書でも先住民族の文化等を学ぶ授業が増えていることから、所蔵している民具資料の新たな活用方法として学校向けに提案しています。

藏珍窯が認定されました

令和5年5月25日に上絵付が多治見市無形文化財に指定されました。保持者・株式会社藏珍窯は、手描きによる上絵付陶磁器を50年以上にわたり製造しています。

上絵の中でも、赤を主体に、黄色や緑色など2～3色を加えた「赤絵」という絵付け技術を得意とし、原材料となる紅柄を約1000日間摺り続けることで生まれる、濃淡の美しい伸びやかな絵付け製品が代表的です。

その他にも、尾形乾山(1663-1743)や野々村仁清(生没年不詳)が手掛け、国宝・国重要文化財に指定されている作品や、九谷焼の五彩の写しなど、上絵付古陶器の再現などを行っています。また、本焼きをした製品に赤絵具をすり込み、ふきとって焼成することで、釉薬のヒビに赤絵具を浸透させる「朱貫入」という技術を考案・商品化しています。



作品3点は全て藏珍窯所蔵

cotton project コットンプロジェクトと民具の活用

綿花を育てて、綿を紡ごう。



1. 可憐でかわいい花びら。
2. 花が枯れると、今度は実が膨らむ。ギザギザの葉で守られながら、ゆっくりと成長中。
3. 定植作業の様子。

文化財保護センターで収蔵している民具資料の一つに「糸車」があります。「糸車」は、今では暮らしの中であまり馴染みがなく、こどもたちにとっては、使い方を理解したり、使うときの想いを感じたり、実際に使うシーンをイメージしにくいものとなっています。

そこで文化財保護センターでは、今年度から「コットンプロジェクト」という小さな取り組みをスタートしています。綿花を種から栽培し、綿を紡ぐまでを見届ける取り組みです。

庶民の毎日の暮らしを支えた生活道具、「民具」。道具のひとつひとつに工夫があり、魅力があります。形の成り立ちや、使われていた当時の暮らしのイメージを広げられるような授業のサポートができるように、丁寧に育てています。



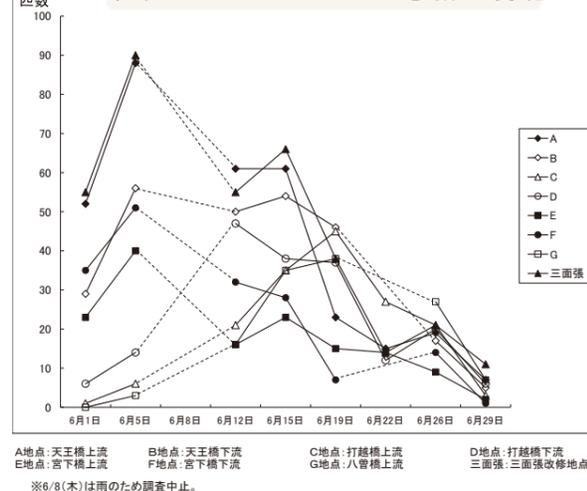
1. 修理が完成した奉加帳。長さ約6m。
2. 市指定文化財「大日如来」も展示中。

奉加帳の修理完成を記念する展覧会
真言宗智山派の寺院、青龍山長福寺(弁天町)。その歴史は古く、鎌倉時代末期の創建とされています。また、室町時代に造られた大日如来坐像(市有形文化財)を有し、多治見を代表する中世寺院として知られています。
令和二年、長福寺史料調査の中で正安三年(一二三〇)頃に書かれた奉加帳が発見されました。「美濃国池田御厨某寺奉加帳」と名付けられたこの史料は、市内で確認されている史料の中では最も古く、令和四年一月に多治見市有形文化財に指定されました。奉加帳は発見当時より水損などによる破損がみられ、特に巻頭部分は著しく欠損していたため、令和四年度から令和五年度にかけて修理を行いました。修理の完成記念として、奉加帳を含む長福寺の宝物を紹介しています。

北小木のホタル

北小木町に毎年数多く飛び交う「北小木のホタル」は、多治見市天然記念物に指定されています。今年も、6月初めから7月半ばにかけて、発生状況の調査を行いました。

今年のゲンジボタル生息数の変化



ゲンジボタルは三〜四年の周期で大発生を繰り返しており、大発生した翌年には数が減少します。生息数が多かった昨年と比較すると、今年のゲンジボタルの発生数は大幅に減少しました。おそらく来年も同様の傾向が続くと推測されます。
一方ヘイケボタルですが、今年は発生する時期が例年よりも早く、六月中旬にはその姿を確認できました。昨年と比較すると数は減少したものの、大幅に減少したというわけではありませんでした。近年北小木町では、田の水を切り、数回にわたり乾田状態にする稲作方法を採用しており、また一部の田は畑作用地になる等、ホタルが生息するための水場が少なくなっています。そのため、ヘイケボタルの生息地が、田の周辺にある水路等に変化してきています。

出張授業へ出かけました！

喜多町西遺跡公園で市内の小学6年生を対象に出張授業を行いました。「竪穴建物はどうやって建てたの?」「弥生時代の人は何を食べていたの?どんな道具を使っていたの?」といったお話をしたり、生徒のみなさんには「貫頭衣(かんとうい)」の試着や火起こし等を体験してもらいました。

喜多町西遺跡は、多治見市の文化財に指定されている史跡で、弥生時代から奈良時代までの竪穴建物の跡や土器など、とても貴重な出土品が見つかっています。このような文化財を保護し、活用していくことも、文化財保護センターの大切な仕事です。

